

令和元年度 栃木市広島平和記念式典中学生派遣報告会 (R1.8.29)

「厳島神社・宮島の見学、千羽鶴の奉納」 B 班

・厳島神社・宮島について 堀江陽人（栃木西）

日本に23件ある世界遺産の一つが、「宮島・厳島神社」です。そして、松島・天の橋立と並んで日本三景の一つになっています。

宮島は、瀬戸内海の広島湾に浮かぶ自然豊かな小さな島です。島へは、フェリーで15分かかります。海の中にある赤い鳥居で有名な厳島神社や五重塔、水族館などがあります。そして、たくさんの鹿が生息しています。実際に行ってみると、想像以上に広く感じました。

593年に建立され、1146年に現在の姿となった厳島神社は、多くのものが国宝、重要文化財に指定され、その数は、200点にも及んでいます。海の中にある大鳥居は、修復工事中ではありましたが、満潮時の風景は、なんとも言えない荘厳な雰囲気でした。一番印象的だったのは、260mもある回廊が、台風や高潮への対策がしっかり施された構造になっていたことです。

建物からも、島の空気や風景からも、長い歴史と、それを守る人々の知恵や思いを感じることができる場所でした。

・見学して心に残ったこと 小林千鶴（東陽）

宮島の厳島神社に行ってみて、まず一番初めに目に入ったのは、やはり厳島神社のシンボルであるあの海の上に堂々とそびえている朱塗りの大きな大鳥居です。私は、この厳島神社に行ったのは2度目で、今回は工事中でしたが、変わらずとても美しかったです。

世界遺産ということもあり、外国人観光客も多く、人も多かったのですが、境内の中は神秘的な雰囲気がありました。そんな静かな場所で、私は引き寄せられるように境内の中を見えていました。私の中で一番心を惹かれたのは能を行う場所です。背景に松の絵が大きく描かれていて、素朴ながらとても美しいものでした。また、海の上で行われる能は素晴らしいだろうなと思いました。1426年前に瀬戸内海の上に建てられた厳島神社は、台風や高潮にさらされながらも今もその姿を変わず保っています。その堂々とした姿から長い歴史を感じることができたのはとても良い体験だったと思います。

・見学して学んだこと 津久井望（大平）

私は、宮島・厳島神社の見学で学んだことが二つあります。

一つ目は、厳島神社の造りです。厳島神社には、百何本もの柱がありますが、その一本と一本の間を一間といいます。それが合計百八間あり、百八という数は、縁起が良いといわれています。灯ろうの数や、本殿から大鳥居までの距離も同じ百八で揃えられており、計算された造りになっています。1400年以上も前、平清盛公が竜宮城を模して造ったことでも

知られています。

二つ目は、宮島の産業の歴史です。昔の宮島には、主となる産業がありませんでした。そこで、修行僧である誓信が、巖島弁財天の持つ琵琶と形が似たしゃもじを作りました。それを、島のお土産として売り出し、現在の形になりました。私は、島を栄えさせようとした人々の努力に感嘆しました。

今回の見学で、私は、島の歴史をつくっているのは、そこに住む人々だと感じました。大変有意義な体験になったと思います。

・原爆の子の像・千羽鶴奉納について 鈴木大貴（吹上）

私は、原爆の子の像を初めて見たときはとても予想していなかった大きさに驚きました。像の下には鐘もついており、美しい音色にも驚きました。また、多くの外国の人やお年寄りなども原爆の子の像を見に来ていて、原爆の子の像に込められた思いや気持ちが伝わってきました。

次に、千羽鶴を奉納する際、多くの県の方々や外国の方々の千羽鶴が奉納されており、とても驚きました。細かく千羽鶴を見てみると、とても心に響く言葉や深く伝わる言葉などが書かれていました。

この二つの場所は、私が平和への思いを強く持った場所となりました。

・千羽鶴を奉納したときの気持ち① 高橋叶実（大平南）

私は、千羽鶴を奉納したとき、周りに飾られているたくさんの鶴の中から、絶対に戦争をなくしたいという強い思いを感じ、ホッとしました。飾られていた鶴の中には、私たちのように県外から来た人たちの鶴も多くありました。また、広島を象徴するものを鶴で表現した作品もありました。このような様々な折り鶴を見て、広島の人々の強い思いや佐々木禎子さんの思いが全国に広がっているのだなと感じました。私たちが奉納した折り鶴にも、「戦争がなくなってほしい、幸せな世界になってほしい。」という強い思いを込めています。きっと届くと願っています。

千羽鶴を奉納したときのあの強い気持ちを忘れずに、栃木市の皆さんや全国の人々に伝えていきたいです。また、これから先も千羽鶴を奉納したときの気持ちを大切にして、平和な世界へとつなげていきたいです。

・千羽鶴を奉納したときの気持ち② 越沼美春（岩舟）

私が初めて原爆の子の像を訪れたとき、一番驚いたことは、隙間なく奉納されていた千羽鶴の数です。その中には英語や中国語などで平和へのメッセージが書かれているものも多くあり、国籍を問わず原爆に対する関心の高さを感じることができました。また、学校の生徒全員で作っても、千羽鶴製作は時間のかかる大変な作業です。それを自ら作り、広島の地に納めに来る人がたくさんいるのだということを感じ、原爆が投下されてから74年

が経つ今でも、平和を願う人々の思いの強さは変わらないんだということも再認識することができました。

平和を願う世界各地の方々が納めた中の一つであり、学校、そして栃木市の代表としての責任の重さをしっかりと受け止め、禎子さんの願った平和な未来を実現したい、という思いを持って納めてくることができたと思います。私にとって平和についてさらに深く考えることのできる、貴重な経験となりました。